

主要出陣資料・一覧 (装飾に用いた万国旗を除く ※万国旗は旧吉野小学校に保管されていたものです)

1. 太田新一氏のこした金門万博の記録

資料名など	作者・訳者ほか	種類	原本成立時期	備考
吉野雛 (木製・特大) 1対	太田桜花堂	民具	不詳	館蔵
吉野雛パネル	太田桜花堂	パネル	不詳	館蔵
古代吉野雛 (土製) 1対	太田桜花堂	民具	不詳	館蔵
古代吉野雛パネル	太田桜花堂	パネル	不詳	館蔵
花かご	太田桜花堂	民具	不詳	館蔵
花かご (アレンジ・ボシセット状)	太田桜花堂	民具	不詳	館蔵
太田新一氏写真	太田桜花堂	写真	不詳	館蔵
サンフランシスコ万博の記念状	紐育桑港萬國博覧会会長ほか	賞状	1941年	館蔵
サンフランシスコ万博での写真 (染川氏と)	—	写真	1939年	館蔵
サンフランシスコ万博での写真帳 (太田新一氏)	—	写真・アルバム	1939年	館蔵
サイン帖 (紐育桑港萬國博覧会担当者名刺)	—	図書	1939年	館蔵
大日本帝国バースポート (太田新一氏)	大日本帝国	民具	1939年	館蔵
太田新一氏日記	太田新一	日記	1939年	館蔵
関連書類類 (花籠製作費演説費決算書を展示)	太田新一	書類	1939年	館蔵
1939 By the GOLDEN GATE souvenir book	—	写真集	1939年	館蔵
金門萬國大博覧会	桑門金門萬國大博覧会日本人協賛会	写真集	1939年	館蔵
新世界朝日新聞 昭和14年10月6日号	新世界朝日新聞社	新聞	1939年	館蔵
ニッポンとアメリカ 11月号 桑港萬博特輯号	ニッポンとアメリカ社	雑誌	1939年	館蔵
紐育世界博覧会 金門萬國博覧会 記念寫真帳	紐育桑港萬國博覧会協会	写真集	1941年	館蔵
JAPON (フランス語の日本観光パンフ)	—	パンフレット	1939年?	館蔵
GIAPPONE (イタリア語の日本観光パンフ)	—	パンフレット	1939年?	館蔵
JAPAN (英語の日本観光パンフ)	—	パンフレット	1939年?	館蔵

※吉野山の太田家より寄贈いただいた資料になります。現在、吉野歴史資料館内で保管しております。

2. 金門以外の万博と吉野

資料名など	作者・訳者ほか	種類	刊行年	備考
山口瞳大全 第8巻	山口 瞳	図書	1993年	個人
徳川昭武漫遊記録 2	日本史籍協会 編	図書	2015年	個人
世界の祭典 万国博覧会の美術展図録	東京国立博物館	図録	2005年	個人
奈良大和路のポスター (興福寺・阿修羅像)	奈良縣ほか	パネル	1970年?	館蔵
奈良大和路のポスター (中宮寺・伝如意輪観音)	奈良縣ほか	パネル	1970年?	館蔵
千九百年 巴里 (パリ) 万国博覧会 臨時博覧会 事務局報告 下	農商務省	図書 (デジタル)	1902年	国立国会図書館
聖路易 (セントルイス) 万国博覧会 日本出品協会 報告	聖路易万国博覧会 日本出品協会	図書 (デジタル)	1906年	デジタルコレク ション※2
博覧会協会 桑港 (サンフランシスコ 旧パナマ) 万国博覧会 事務報告	中里 一郎 編	図書 (デジタル)	1916年	—

※吉野山の太田家より寄贈いただいた資料になります。現在、吉野歴史資料館内で保管しております。

※2 国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/>) の「ログインなしで閲覧可能」より該当の図書を印刷し、パネル化しました

3. 太田亀一 (古林) 氏の資料

資料名など	作者・訳者ほか	種類	原本成立時期	備考
復役者 版画	太田 古林	色紙	昭和?	館蔵
蔵王権現 版画	太田 古林	色紙	昭和?	館蔵
弘形 太田古林作品目録	太田 古林	図書	1976年	館蔵
美仏参籠	太田 古林	図書	1978年	館蔵
飛鳥・奈良	太田 古林	図書	1971年	館蔵
平安・藤原	太田 古林	図書	1972年	館蔵
鎌倉・吉野	太田 古林	図書	1975年	館蔵

※吉野山の太田家より寄贈いただいた資料になります。現在、吉野歴史資料館内で保管しております。

主要参考文献 (本文中で紹介しているものは除く)

図書名	作者・訳者ほか	出版社	刊行年	形式
狩野麟川院<龍田屏風>ジュネーブ パヴァーコレクション (『美術研究』383掲載)	塩谷 純	東京文化財研究所	2006	論考 (デジタル) ※1
太田古林が見た山形の文化財	奈良大学博物館	奈良大学博物館	2024	図録
物語の文化史事典	森永 卓郎 監修	展望社	2008	図書
戦時下の万博と日本・の文化	山本 佑恵	森話社	2012	図書
皇紀・万博・オリンピック 皇室ブランドと経済発展	古川 隆久	中公新書	1998	新書
博覧会と明治の日本	國 雄行	吉川弘文館	2010	図書 (デジタル) ※2
紐育 金門 万国博覧会 政府参事事務 報告書	商工省監理局	商工省監理局	1941	図書 (デジタル) ※2

※2 国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/>) に掲載されている資料を閲覧しました。

※3 東京文化財研究所刊行物リポジトリ (<https://tohoku.repo.nii.ac.jp/>) に掲載されている論文を閲覧しました。



【企画・展示】吉野歴史資料館 【会期】令和7年3月1日～11月30日 ※本紙作成にイラスト AC から DL した画像を利用しています。



はじめに

今から70年前にあたる1939年と1940年の2年にわたって、アメリカのサンフランシスコとニューヨークで万国博覧会が開催されました。

サンフランシスコの博覧会は金門 (ゴールデンゲート) 万国博覧会といい、1939年2月18日～10月29日と1940年5月25日～9月29日の2期にわたって開催されました。ゴールデンゲートブリッジの開通を記念してひらかれた万博でした。

ニューヨークの博覧会は紐育 (ニューヨーク) 万国博覧会といい、1939年4月30日～10月31日と1940年5月11日～10月27日の2期にわたって開催されました。こちらは、ジョージ・ワシントン初代大統領就任150周年記念がかけられており、1939年は「明日の世界」、1940年は「平和と自由のために」

というテーマとなっていました。

当時の日本はこのどちらの万博にもパビリオンを出展しており、このうち金門万博には吉野の人も現地へおもむき、ものづくりを実演する、ということをしています。1939～1940年といえば、日本は日中戦争下であり、1941年には太平洋戦争に向かう時期です。欧米諸国では1939年から第二次世界大戦が始まっていた。

この様な戦乱の時期に開かれた万博で、現地に行った吉野の人は何を見たのでしょうか。大阪万博が開かれる今年だからこそ、金門万博を中心に、その他の過去の万博と吉野のつながりについても振り返りたいと思います。

なお、本陳列にあたり、吉野山の太田家より寄贈いただいた資料を多くご紹介しています。関係する皆様、整理にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。



太田家資料にみる「金門万博」開催当時の世界情勢

万博は時代とともに、輸出貿易・国内産業の促進 (商談)、国力・文化の宣伝 (外交)、観光 PR や国威発揚、興行等、目的を少しずつ変えてつ開催されてきました。金門万博が開催された1939年は、太平洋戦争開戦直前。パネー等事件のため日米関係は悪化してしまいましたが、当時の日本は1941年に万博を招致したい意向と、欧米諸国の対日イメージ改善をたい意向があり、

アメリカの万博参加を「いの一歩」に表明しました。

太田新一氏がこの日記や当時の新聞記事などからは、日米間の民間交流は続いているものの、国家間での不安定な空気が読みとれます。1939年10月6日付の新聞では、金門万博の急ぎよ閉塞と秋の日本デーが中止になったと報じられています。太田新一氏の来演は開催されましたが、一部事業は中止されました。



さて、太田新一氏が残した資料の中には、サンフランシスコにそびえ立つ「摩天楼、ゴールデンゲートブリッジ」を埋めてすぐ自動車の写真などがあり、街並みを写真した新一氏は日記に「とても立派なのに驚いた」と記している。また、新聞社を見学し、撮影して3秒で写真ができあがるカメラ、1時間に4万部を刷る印刷機が何台と並ぶ工場なども日記に残っている。

万博会場入りの後は、奈良一彫師の波流川と笑顔で写真の写るこの一方、日影のしずかさと緊張したしずか嬢というようである。日記の内容も売りしずか嬢を釣

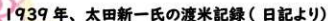
金門美國大橋紀念
金門縣政府編纂
GOLDEN GATE INTERNATIONAL EXPOSITION

太田新一氏は万博参加後、サンフランシスコにあった金門学園（日本語学校？）とも交流し、その後文通もしていたようです。「アメリカはドイツを警戒しており、アメリカ国民は日米戦争は思っていない。平和になったら吉野の桜を見に行く」などの意見をかわし行きました。

太田新一氏保管の金門万博資料（一部）



太田新一氏保管の金門万博資料（一部）
※展示していない資料を含む



九月十六日 吉野山出発。
奈良東泉等に挨拶後、亀一宅に行く。

九月一七日 大阪駅を出発。送別会。

九月一八日 東京到着。各種挨拶や買い物をする。

九月二二日 横浜からサンフランシスコに向け出港。

九月三十日 ハワイ（ホノルル）到着。
同日午後にはハワイに出発。

一〇月六日 サンフランシスコ到着。日本ホテル滞在。

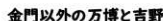
一〇月七日 サンフランシスコ市内観光。後、実演準備。
「さっぱりこの国の建物が分らない。とても立派なのに驚いた」と記している。

一〇月一〇日 材料到着。税関検査を受ける。
 一〇月一一日 万博会場まで実演を行う。
 ~
 一〇月二九日 万博で実演。午後四時半に閉館式。
 一〇月三一日 工場で残品整理。金門学園等市内訪問。
 十一月一日 工場の掃除。残った材料は置いて帰る。
 十一月四日 乗船。サンフランシスコを出発。
 十一月九日 ホノルルに到着。
 十一月十八日 帰国。
 ※旅行の船では家族と離れる寂しさを日々記しているが、
 帰りの船ではすでにすっかり前かたの様子を記している。



ただし、太田古朴氏は仏像研究の点で、吉野町内の重要文化財・木造聖徳太子立像（金峯山寺所蔵）に大きな影響をのこしました。現在、聖徳太子立像の内部には、舍利塔・摺仏・法華経・経筒などが入っていたことがわかっています。聖徳太子立像の中に納入品が

今回寄贈をうけた太田家資料は、太田亀一氏の出征旗や、太田古朴の没後に新一氏の息子・豊茂氏が買い取ったという版本などが含まれていました。万国博覧会とは関係ありませんが、近年再評価されつつある太田古朴氏の研究に、寄与できる資料になる…かもしれません。



万国博覧会と吉野のつながりは、工芸品のモチーフまで含めると、かなり古くまでさかのぼります。

年	会場	主な出品物
慶応 3/1867	パリ	吉野山が図柄の工芸品 梨子地吉野山時輪鼻紙台、吉野山時輪手箱、吉野山時輪茶箱、狩野勝川院簾 吉野龍田金屏風
明治 6/1873	ウィーン	吉野産の物品か？ 吉野山が図柄の工芸品
明治 9/1876	フィラデルフィア	吉野山が図柄の工芸品 吉野山時輪見台
明治 13/1880	メルボルン	吉野産の物品か？ 吉野山が図柄の工芸品
明治 33/1900	パリ	吉野産の物品 吉野山が図柄の工芸品
大正 4/1915	パナマ	吉野産の物品 吉野園標紙（園標紙展覧会ほか）

特筆すべき出品物としては、1873年のウィーン万博で出品された吉野山嵯峨見台があげられます。ウィーン万博で出品された品々は、終了後、ニール号という船で日本に送り届けられることになります。しかし、この舟が途中で暴風雨にあったため、伊豆沖で座礁・沈没するという痛ましい事件がおこったのです。ニール号沈没から1年半後、沈没品の内68点が海底から引き上げ

げられました。しかし、引き上げられた漆塗りの品々には、際だった損傷が見当たらなかったといいます。そのため、日本の漆器のすばらしさを証明することとなり、吉野山蔭絵台ははじめ多くの漆器が、アメリカ・フィラデルフィア万博に再度出品されたのでした。この見台は、現在、東京国立博物館で大切に保管されています。



万博というと、日本万国博覧会（大阪万博・EXPO
'70）を思い出す人も多い事でしょう。そして、大阪
へ全国・全世界の方々がお越しになったわけですから、
万博見学のついでに、吉野など関西地方各地を訪れた
人もいたのではないのでしょうか。

作家・山口瞳氏が書いた本『なんじゃもんじゃ』には、大阪万博の年に吉野山を訪れた記録「花曇り吉野」がのっています。これによると、山口瞳氏はドスト氏

ここ彫刻家・関頌亭（保寿）とともに吉野山を訪れた
 そうで、「（前略）近鉄大阪阿倍野橋駅へ。吉野行の急
 行が出る。座席指定である。そこにも万博帰りの人た
 ち。万博から京都、万博から奈良・吉野、万博から四国。
 そういうコースになっている」と書かれています。

こうした旅人たちを奈良・吉野に誘致する際、「奈良大和路」のポスターは大いに用いられたことでしょう。